

みやもとだより

第4号 平成26年7月発行

季節のおまつり

早池峰神楽

はやちねかぐら

それらの人を修験者とか山伏という。里の宗教に対しこれらは「山の宗教」といえる。

八月一日、各集落から集まつた権現様と呼ば

れ崇敬されている十数体の獅子頭が社殿前で子供達も交え円くなつて踊り、神輿の渡御に一緒に連なり村へ下りてゆく。そして神樂殿において、山伏神楽では日本有数の早池峰神楽がはじまる。これらを伝承している岳地区と大賀地区の競演は、演者が一人舞、二人、四人と演目によつて異なり、また伴奏する笛、締太鼓と銅拍子（手平鉦）が織りなすリズムは緩急自在に誠に小気味よい。

演者の体の動きを通して神靈感や宇宙感を表現して、神楽に神がかりを取り込んで延年、舞楽、田楽などで人々の現世利益の願い事に応えている。舞曲は式舞として山神舞、神舞として天女の舞、座舞として機織の舞など七十曲ほどあるという。東北岩手の山間に五百年以上続く神楽である。



早池峰神楽という名前は知つても、どこにあるのか知らない人も多いと思う。岩手県の中央を南北に走る北上山地の丁度真中辺に位置し、花巻市から東北方向へ山の中を車でひた走ること一時間強、大迫登山口にある早池峰神社に着く。霊山早池峰山はそこから更にまた登つて行かなければならぬ。

神道は祭の宗教とも言われ、庶民が生活を営んでいる場所と密接につながつ

て、その地に根ざした祭を行つてゐる。従つて村の鎮守の社、町のなかにある神社の祭は神道の一形態であり「里の宗教」といえる。それに対して「修驗道」は山の険しいところを修行の場として、神靈と交流し、特別な驗力を身に付け、里に下つて法力によつて加持祈祷、病氣治療、託宣などの活動を行う信仰形態で、

（写真・文 宮本卯之助）



この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

福德神社本社神輿製作

昨年来、日本橋室町に建築中の福德神社様の本社神輿製作を進めています。今年十月末のお納めを目指し、現在は屋根部分などに漆を塗っている段階です。

平安時代には日本橋の地にあったとされるこちらの神社も、開発などに伴い戦後だけでも3度の移転を繰り返しましたが、十ヶ月に街の新たなシンボルとして再建され、先日上棟祭が執り行われました。それに伴つて御神輿を新調ということで、弊社でも



「日本橋室町の再開発を象徴する」ものにと地域や神社の意匠を多く取り入れた設計にいたしました。福德神社様の別名「茅吹神社」にちなみ、爽やかな「茅吹色」を飾り紐などに配し、日本橋にある麒麟の像をモチーフにした彫刻などを施しました。

古から現代への伝承、そして新たな音吹を吹き込む取り組みに参画させていただけることを大変喜ばしく感じるとともに、完成に向か職人一同気を引き締めています。

怪談嘶

夏になると誰ともなく怖い話で盛り上がる：これは「落語」の世界でも同じ。

道具は扇子と手拭いだけ、あとは漸家さんの表情と話術で一気に異次元に連れて行つてくれる落語。今日のような形になり隆盛を迎えたのはなんと江戸時代末期だとか。太鼓や笛などは、効果音として使われます。例えば幽靈が出てくるシーン。明治期に作られた『真景累ヶ淵』が特に有名で、歌舞伎にもなったほど。

江戸の長屋を訪れ、まるで殺人現場の目撃者になつたような不思議な感覚に陥ることでしょう。客席に居ながらにしてタイムスリップとサスペンスを体験し、現代の自分に戻るのに時間がかかるかもしれません。

浅草徒然につき

八月二十三日（土） 浅草サンバカーニバル

下町でサンバ！と思われるかもしませんが、「浅草サンバカーニバル」は浅草の夏を締めくくるイベントとして、毎年50万人ほどの観光客で賑わいます。この日は浅草の町中が、きらびやかで華やかな衣装の皆さんでいっぱいです。パレードだけではなく、真剣勝負のコンテストもあり、大変にぎやかな1日になります。

私は今ロサンゼルスから日本への飛行機の中でこの原稿を書いています。世界中から500名もの太鼓爱好者が集い、「ワールド太鼓ギャザリング」というイベントが開催され、私も日本太鼓に関わる者として参加をしてきました。数々のワークショップやコンサートに参加者の目は生き生きし、真剣そのもので、熱氣に圧倒されます。こうした太鼓の広がりの核心にあるものは、日本の祭の持つ感動と興奮に他なりません。人種も国境も超えて、太鼓の響きが人々に訴えるものは世界共通なのです。下町では週末ごとに盆太鼓の音色が聞こえる季節がやってきましたが、世界各地でも太鼓が人々を魅了している事に大きな誇りを覚えます。

発行	株式会社宮本卯之助商店
企画広報室	〒111-10035 東京都台東区西浅草二十一 電話 ○三一三八四四一二二四一 www.miyanoto-unosuke.co.jp
代表取締役社長	宮本卯之助
宮本芳彦	